手術室機器に対するAHP製剤を含んだ医療用清拭クロス OPTIM 33TBの有用性

東京医科歯科大学医学部附属病院　MEセンター
東京医科歯科大学医学部附属病院　手術部[1)]
○後藤啓吾、大久保淳、瀬島啓史、倉島直樹、田中直文[1)]

【背景】

手術室環境における感染対策において、手術に使用された機器の清拭は重要である。医療機器に対する清拭方法は多種多様であるが、基本的には目に見える汚れをとることと、血液付着時の対処が主である。血液感染防止の観点から考えた場合、次亜塩素酸Naが含まれたもので清拭を行うことが望ましいが、その問題点として機器の部材劣化が挙げられる。そこで今回、含まれている主成分が加速化過酸化水素（AHP）である医療用清拭クロスでの清拭能の評価を行うこととした。

【目的】

AHP製剤を含んだ医療用清拭クロスOPTIM 33TB（SciCan社製、以下OPTIM）の有用性について検討した。

【対象】

当院手術室に配置してある麻酔器エスパイア（GEヘルスケア社製）8台

【方法】

ルシパックPen、ルミテスターPD-30（ともにキッコーマン社製）を用いて、手術終了後のエスパイアの各種設定ボタン部分における清拭前後でのATP値 [RLU]を測定した（n=8）。清拭方法として、現在当院で使用されているセイフキープ（花王社製）をA群、OPTIMをB群とし、それぞれの比較を行った。

【結果】

清拭前後でのATP値 [RLU]の平均値はA群：2550±881.6 / 1131.6±425.8、B群：2633.5±855.0 / 488.0±123.3であった。t検定を用いて解析した結果、前値では両者間で有意差が見られなかった。後値ではB群が有意に低値を示した（$p<0.01$）。

【考察】

OPTIMでの清拭後ATP値は488 [RLU]であった。傷が付きやすい軟部（ゴム製品）におけるATP管理基準値（キッコーマン；ATP＋AMP拭き取り検査～測定原理～）は500 [RLU]とされており、基準値を下回っていることから、OPTIMは十分な清拭能を備えているといえる。さらに、クロスに含まれている主成分のAHPは部材劣化を起こさないので、次亜塩素酸Naでは清拭出来なかったモニタパネル画面への清拭も可能である。そして除菌能に関してはMRSAやVRE等の抗生物質耐性菌に対しても、1分間での除菌が可能であるとされており、清拭能と除菌能を兼ね備えた理想的な医療用清拭クロスといえる。

【結語】

AHP製剤を含んだ医療用清拭クロスOPTIM 33TBは手術室機器に対する清拭クロスとして有用である。